

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の個性を尊重し、豊かな人間性をはぐくみ、志を高く時代を切り拓く人材を育てる学校

～ 「茨西 PRIDE」のもと、茨西につながるすべての人が「TEAM 茨西」として、生徒それぞれの「志をカタチに」する ～

- 【生徒に育みたい力】 ◇ 確かな学力を基礎に、高い志を持ち、グローバル社会を切り拓く力
◇ 生徒が自身に誇りを持ち、社会人として自律できる力
◇ 母校愛を涵養し、地域そして世界とつながる力
- 【教職員に求める力】 ◇ 同僚性を高め、生徒に真摯に向き合う力



2 中期的目標

1. “確かな学力”の育成

(1) 生徒の学習支援の強化

- ア 授業規律の一層の徹底
イ 学習支援体制の構築と教育産業の有効利用
ウ 自学自習のハード&ソフトの整備

(2) グローバル人材の育成

- ア EFHS の取り組みを引き継ぎ、英語四技能習得にむけた教育活動の推進

(3) 「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」の育成、「学びに向かう力・人間性」を育むための授業力向上

- ア 授業評価の PDCA サイクルによる授業改善と教員相互が切磋琢磨できる環境づくり
イ アクティブ・ラーニング (AL) 及び ICT を活用した能動的授業の推進

※ 学校教育自己診断 (保護者版)、授業のわかりやすさに係る肯定回答率、令和4年度 65%以上をめざす。(H29 : 52%・H30 : 55%・R1 : 58%)

※ 学校教育自己診断 (教職員版)、AL へ取り組む教職員の割合、令和4年度 85%以上をめざす。(H29 : 88%・H30 : 70%・R1 : 80%)

2. 志高く “社会を切り拓く力”の育成 ▷ 「志をカタチに」

(1) 生徒の将来を見据えたキャリアサポート

- ア 全方位の進路マップによる、早期の生徒・保護者の進路意識の醸成
イ 高大連携やフィールドワーク等によるキャリア意識の涵養

※ 第3学年4月の進路希望調査 (4年制大学・短期大学進学者)の実現率、令和4年度 80%以上をめざす。(H29 : 76%・H30 : 62%・R1 : 69%)

3. 生徒が自身に誇りを持ち、将来社会人としての “自律する力”を育む ▷ 「茨西 PRIDE」の涵養

(1) 自律を促す教育活動の展開

- ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上

(2) 安全安心な学校づくり

- ア 人権教育委員会及を中心とし豊かな人権感覚を養うと共に、道徳教育の推進を図る。
イ 教育相談委員会を中心とした教育相談活動の活性化
ウ 交通安全教育や防災・防犯教育を通じた危機管理能力の向上と共助に係わる意識の涵養

※ 始業5分前の「ロッカー前遅刻」総数、令和4年度 2,500人以下をめざす。(H29 : 4,062人・H30 : 3,792人・R1 : 3,232人)

※ 生徒・保護者向け学校教育自己診断「命の大切さ・豊かな心・人権感覚の醸成」に係わる質問の肯定回答率、令和4年度 75%以上をめざす。

(生徒・保護者回答の平均 H29 : 68%・H30 : 71%・R1 : 69%)

4. 学校・家庭・地域・世界と “つながる力”の育成 ▷ 「TEAM 茨西」の形成

(1) 各種 HR 活動・生徒会活動・部活動や国際交流行事を通して多種多様な、つながる力を養う。

- ア HR 活動・生徒会活動及び部活動の活性化
イ 世界とつながるグローバル市民育成に向けた国際交流事業の一層の推進

(2) 中高及び小高連携の推進と地域連携の強化

- ア 中高連絡会・地域交流協議会等により地域連携を強化し、地域のボランティア活動を通じ地域貢献を推進する。
イ 卒業生・保護者・地域の教育に係る人材等を発掘し協力体制を構築する。

(3) 家庭との連携及び PTA 活動の活性化

- ア 家庭連絡や意思疎通をきめ細かく行い、学校と家庭で連携した教育を推進する。
イ PTA 活動の一層の活性化

※ 生徒の行事に係わる学校教育自己診断の肯定回答率、令和4年度 85%以上をめざす。(H29 : 73%・H30 : 78%・R1 : 75%)

※ 部活動への一年次当初の加入率、令和4年度 75%以上をめざす。(H29 : 63%・H30 : 64%・R1 : 70%)

※ 保護者への連絡及び意思疎通の項目の肯定回答率、95%以上を維持する。(H29 : 96%・H30 : 95%・R1 : 96%)

5. 教職員の “生徒と向き合う力”の強化

(1) 教職員がチームで生徒と向き合う

- ア 教職員の教育力を伸ばすための組織的・計画的なプランの策定及び実施、および職員研修の実施
イ 教職員の働き方改革

※ 教職員向け学校教育自己診断において全ての項目で肯定回答率令和4年度 90%以上をめざす。(H29 : 4/9項目・H30 : 5/9項目・R1 : 3/9項目)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年1月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|---|
| <p>【生徒アンケート結果より】</p> <p>・質問全 13 項目中、すべての項目において肯定的回答のポイントを伸ばした (R1 年度は、5/13 項目、H30 年度 10/13 項目、H29 年度 8/13 項目)。</p> <p>① 学校に行くのが楽しい 75% ⇒ 80%</p> <p>② まじめな態度で授業を受けている 88% ⇒ 91%</p> <p>③ 授業で情報機器を活用している 81% ⇒ 84%</p> <p>④ 他の先生が授業見学にくることがある 33% ⇒ 49%</p> <p>⑤ 学校生活についての先生の指導は納得できる 56% ⇒ 73%</p> <p>⑥ 茨木西高校は進路についての情報を知らせてくれる 72% ⇒ 84%</p> <p>⑦ 将来の進路や生き方について考える機会がある 71% ⇒ 81%</p> <p>⑧ いじめについて私たちが困っていると真剣に対応してくれる 70% ⇒ 80%</p> <p>⑨ 悩みなどがあるときに相談したいと思う先生がいる 42% ⇒ 51%</p> <p>⑩ 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある 62% ⇒ 78%</p> <p>⑪ 「レインボーフェスティバル」は、楽しく行えるように工夫されている 69% ⇒ 82%</p> <p>※ R1 年度は、「体育祭」は、楽しく行えるように工夫されている</p> <p>⑫ 「いばにしフェスタ」は、楽しく行えるように工夫されている 71% ⇒ 75%</p> <p>※ R1 年度は、「文化祭」は、楽しく行えるように工夫されている</p> <p>⑬ 「修学旅行」は楽しく行えるよう工夫されている 86% ⇒ 90%</p> <p>・コロナ禍の中、教職員が生徒たちと力を合わせ「チーム茨西」として、とにかく出来ることに全力で取り組んだ成果が、すべての項目のポイントアップに現れている。この1年間本当に大変だったが、このアンケート結果に教職員一同の努力が報われた気がする。</p> | <p>令和2年度 大阪府立茨木西高等学校 第1回 学校運営協議会 (記録概要)</p> <p>◆日時 令和2年6月(文書開催)</p> <p>1) 近況報告</p> <p>① 学校は大変だと推察しますが、現時点での茨西での状況を知りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校中は、茨西携帯メール&学年別メールマガジンで情報発信に努めてきた。また、校長室だよりブログもできるだけ毎日更新している。 ・授業数確保のため、夏休み・冬休みを10日間に短縮し、土曜授業を計5回実施する予定。学校行事は精査が必要になってくるができるだけ実施する方向で検討している。 <p>② 入学後、学校が休みにになりましたが、新1年生の学校定着に影響はなかったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大いにあると危惧している。新入生の担任団は、ここからのリカバリーについて計画している。 <p>③ オンライン授業の取り組み・成果・問題点について知りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月までの「臨時休校」中は、教職員の手作りの動画や NHK School ONLINE、無料動画配信などの活用をすべての教科で取り組んだ。残念ながら双方向のやり取りまではサポートできなかったため、第2波に備えてグループウェアの活用を準備している。 <p>2) 協議</p> <p>① 令和2年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者および部活加入率について、粘り強い努力により随分改善された。引き続きの取り組みをお願いしたい。 ・自習室及び質問コーナーの活用者数の増加、外部模試参加者の増加に期待したい。 ・現在は「新たな生活様式」の中での学習活動を模索している。日常性が回復できた時点で、改めて方策を検討する。 <p>② その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新一年生も高校生活を楽しみにしていると思う。一日も早いコロナの終息を願う。 |
| <p>【保護者アンケート結果より】</p> <p>・アンケートの回収率が 83%と 10 ポイント上昇した (R1 : 73%、H30 : 77%、H29 : 71%)。</p> <p>・質問全9項目中、7項目において肯定的回答のポイントを伸ばし、1項目は変わらず、1項目で減少した。</p> <p>① 子どもは学校に行くのを楽しみにしている 73% ⇒ 80%</p> <p>② 子どもは、授業がわかりやすいと言っている 58% ⇒ 61%</p> <p>③ 茨木西高校の生徒指導の方針に共感できる 79% ⇒ 81%</p> <p>④ 茨木西高校は、将来の進路実現に向けた適切な指導をしている 73% ⇒ 73%</p> <p>⑤ 茨木西高校は、いじめについて子どもが困ることがあれば真剣に対応してくれる 76% ⇒ 80%</p> <p>⑥ 茨木西高校は、豊かな心や人権感覚を持ち、自分の生き方を考える生徒を育てようとしている 75% ⇒ 80%</p> <p>⑦ 茨木西高校は、色々な手段(携帯メールなど)で家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている 96% ⇒ 95%</p> <p>⑧ 授業見学や懇談会、進路説明会などの活動に参加したことがある 63% ⇒ 58%</p> <p>⑨ 「レインボーフェスティバル」や「いばにしフェスタ」などの学校行事に参加または動画配信の視聴をしたことがある 65% ⇒ 70%</p> <p>※ R1 年度は、体育祭や文化祭などの学校行事に参加したことがある</p> <p>・①については、長く続いた「臨時休校」による通常の学校生活への渴望が影響を与えていると考えられる。(生徒アンケートも同様)。</p> <p>・⑦については、昨年度よりもブログ更新も含めて密に連絡を取ったつもりだったが1ポイント下がった。今後もより質の高い情報発信に努めていく。</p> <p>・⑧については、コロナ禍の中で出来る限り代替行事も実施したが、中止や制限せざるを得ない行事もあった影響であろう。</p> <p>・⑨については、すべての学校行事において保護者の参加を制限せざるを得なかったが、代替として各学校行事の様子を教員が撮影・編集した動画の配信が保護者に支持されたと思われる。</p> | <p>令和2年度 大阪府立茨木西高等学校 第2回 学校運営協議会 (記録概要)</p> <p>◆日時 令和2年9月29日(火)午後3時30分から午後5時</p> <p>◆6限目に授業見学を実施(1年地学基礎、2年数Ⅱ、3年古典・日本史)</p> <p>1) 学校長挨拶</p> <p>2) 協議会委員並びに事務局員の自己紹介</p> <p>3) 近況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症による休校中の課題郵送について ・分散登校中の学校の様子について ・北部地震で被害を受けた普通棟の階段修復工事の完了について ・オンライン授業、グループウェアについて <p>4) 協議</p> <p>① 令和2年度「学校経営計画」進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の署名活動により、6月に中止となった体育祭を9月にレインボーフェスティバルとして実施した。 ・教育産業を利用した基礎力診断テストと連動した弱点補強の電子教材を1年生全員が利用している。 ・自習室及び質問コーナーの利用者が増加している。 ・10年目研修を受講している先生を中心に研究授業の活性化、パディシステムの活用を継続している。 ・オーストラリアへの語学研修は中止、代替案としてオンライン交流を計画中。 ・例年近隣地域の行事に生徒会執行部や複数のクラブが参加しているが、今年度はコロナ禍の影響でほとんどが中止となっている。 ・学校経営計画の数値目標を達成することは大変なことだと思われる。くれぐれも無理のないように。 <p>② その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校で新型コロナ感染者への偏見防止に取り組んでいる。 ・連絡や課題配送などの学校の対応が早く感謝している。 ・オンライン授業で使用するグループウェアの機能を普通の学校生活でも活用していきたい。 ・教職員の多忙感の軽減を進めていきたい。 ・2年生の修学旅行先を海外から国内への変更の経緯と現時点での目的地と行程の説明。 |
| <p>【教職員アンケート結果より】</p> <p>・昨年度の学校運営協議会での指摘を受け、提出状況を教職員名簿でチェック、アンケートの回収率が 100% (17 ポイント上昇) となった (R1 : 83%、H30 : 85%、H29 : 83%)。</p> <p>・質問全9項目中、2項目において肯定的回答のポイントを伸ばし、1項目は変わらず、6項目で減少した。</p> <p>・6項目で肯定的回答のポイントが減少(5項目は微減だが、1項目は4%減少している)した要素の一つに、アンケートを全教職員から回収した影響もあると考える。</p> <p>① 学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている 91% ⇒ 89%</p> <p>② 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている 76% ⇒ 85%</p> <p>③ この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒(生活)指導を行っている 89% ⇒ 85%</p> | <p>令和2年度 大阪府立茨木西高等学校 第3回 学校運営協議会</p> <p>◆日時 令和3年2月17日(水)午後3時30分から午後5時</p> <p>◆場所 大阪府立茨木西高等学校 会議室</p> <p>1) 学校長挨拶</p> <p>2) 近況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第16回環境フォトコンテスト「わたしのまちの〇と×」入賞作品集 ・「2020年度ぼうさい甲子園」にて「はばタン賞」受賞 ・海外修学旅行の中止と国内修学旅行の実施について ・レインボーフェスティバル(体育祭の代替行事)について ・いばにしフェスタについて(文化祭の代替行事)について ・個人情報の取り扱いについて <p>3) 協議</p> <p>① 令和2年度「学校教育自己診断」集計結果について</p> <p><生徒版> 全項目で肯定的な意見が増えた。4月、5月の休校を経験し、学校生活の大切さやありがたみをより実感できたことが影響したか。</p> <p><保護者版> 回収率が10%上昇した。「授業見学や懇談会、進路説明会などの活動に参加したことがある」</p> |

府立茨木西高等学校

| | |
|--|---|
| <p>④ 生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている 82% ⇒ 80%</p> <p>⑤ いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる 91% ⇒ 89%</p> <p>⑥ 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる 87% ⇒ 85%</p> <p>⑦ 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている 80% ⇒ 85%</p> <p>⑧ 教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている 98% ⇒ 98%</p> <p>⑨ 生徒の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法を行っている 80% ⇒ 79%</p> | <p>の数值が下がった。コロナ感染症の影響で開催できていない。</p> <p><教職員版> 回収率が100%になった。 数值が低下した項目もあったが、これをきちんと分析して次年度の改善につなげたい。</p> <p>(運営協議会委員から出た意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員版について、回収率を上げることで否定的な意見・数值が上がることは悪いことではない。 ・教職員版についても数值が上がっている項目もある。 ・生徒版の「学校生活についての先生の指導は納得できる。」の数值が高いが何か対策しているか。 ⇒ 高圧的な指導でなく、教員が生徒に丁寧に指導している成果か。 <p>② 令和2年度「学校経営計画及び学校評価」達成状況(案)について (校長より概要の説明)</p> <p>(会長より) 令和2年度の達成状況について、運営協議会として承認とする。</p> <p>③ 令和3年度「学校計画及び学校評価(案)」について (校長より令和2年度からの変更点について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上の項目で「アクティブ・ラーニング」を「主体的・対話的で深い学び」に変更した。ICT活用推進では、新たに生徒一人一台の学習端末の有効利用を追加した。 ・語学留学については実施が不透明なため、新たな取り組み(webミーティングなど)を計画する。 ・若手塾を若手教員交流会に変更し、教職員の負担増加にならない育成システムを目指す。 <p>④ 学校運営協議会の実施要項の改正について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要項の中に、オンライン会議システムの利用についての項目を新たに追加した。これにより、条件を満たせばオンラインでの学校運営協議会の開催、出席を可能とした。 <p>⑤ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> (事務長より) GIGA スクール構想の予算と今後の見通しについて (首席より) 中学校や地域との連携について。次年度の校内行事、PTA活動の活性化について。 (3年主任より) 遅刻の減少と生徒の様子について。 (2年主任より) 11月実施の修学旅行報告と今後の進路指導について。 (1年主任より) 生徒の様子とICTを利用した家庭学習について。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・①および③、④については、コロナ禍の対応に時間を取られ教員一人一人の余裕が奪われた影響が出ている。 ・⑥については、特に新生生を中心に長期の「臨時休校」の影響によって教育相談の対象となる生徒が増加しており、SCの活用件数も9→33件と急増しているため。 <p>また、支援教育体制の再構築も現在本校が取り組んでいる重要課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑦については、3年生有志が「体育祭復活」の活動を行い、9割以上の署名を集めて校長室に持参。これを受けて教職員と何度も協議を重ね、9月上旬に「レインボーフェスティバル」として体育祭の代替行事を実施。また、その影響で中止となった文化祭の代替行事として「いばにしフェスタ」を企画し、文化部を中心に発表の場を確保できたことが大きく影響しているであろう。 ・③および⑥、⑦、⑨に、昨年までは0%だった「まったくあてはまらない」の回答が2~4%出現した。アンケートを全教職員から回収した影響もあると考えるが、今後の数値の変動に注意したい。 | |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|------------|--|--|---|--|
| 1 確かな学力 | <p>(1) 生徒の学習支援</p> <p>ア・授業規律の一層の徹底</p> <p>イ・新学習指導要領への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援体制の構築 教育産業の有効利用 <p>ウ・自学自習の環境整備及び運用</p> <p>(2) グローバル人材の育成</p> <p>ア・英語教育の一層の推進</p> <p>(3) 授業力向上</p> <p>ア・PDCA サイクルによる授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員が切磋琢磨できる環境づくり <p>イ・アクティブ・ラーニング (AL) の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 活用推進 | <p>(1) 生徒の学習支援</p> <p>ア・授業規律の徹底と、間かせる態勢づくり、ほめる授業の実施</p> <p>イ・魅力あるカリキュラムマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期休暇中の講習の充実 教育産業を活用した自学自習の充実 外部模試の活用 <p>ウ・自習室及び質問コーナー活用推進</p> <p>(2) グローバル人材の育成</p> <p>ア・英語四技能習得に向けた取組み</p> <p>(3) 授業力向上</p> <p>ア・授業アンケートの振り返りによる改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業マイスターの指名とパディシステムによる授業見学の一層の活性化 <p>イ・AL 研修及び教授法の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器の一層の充実と第二LAN 教室の有効利用 | <p>(1) 生徒の学習支援</p> <p>ア・授業規律を守る生徒割合 90%以上 (R1:89%)</p> <p>イ・新指導要領に向けた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期休暇中の講習への参加のべ人数 120 名以上 (R1:100 名) 教育産業を活用した学習動画の自主的な視聴^{新規} 外部模試参加者のべ 420 名以上 (R1:406 名) <p>ウ・自習室及び質問コーナーの活用数のべ 300 名 (R1:統計なし)</p> <p>(2) グローバル人材の育成</p> <p>ア・英語四技能習得に向けた指導法の確立と PDCA サイクルの構築^{新規}</p> <p>(3) 授業力向上</p> <p>ア・授業の振り返りシート提出と授業改善に係わる面談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> パディシステム活用数 140 回以上 (R1:130 回) 授業マイスターの指名と研究授業の活性化 <p>イ・AL 取り組む教職員の割合 85%以上 (R1:80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の ICT 利用率 85%以上 (R1:81%) と ICT に係る研修実施 | <p>(1) 生徒の学習支援</p> <p>ア・授業規律を守る生徒割合 91% (○)</p> <p>イ・現行カリキュラムは週 30 単位だが、全学年とも週 31 単位での実施を立案。文系・理系選択に応じた進路保証を重点的に考慮したカリキュラムプランが完成 (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で長期休暇が消失、講習の実施がかなり制限された参加のべ人数 52 名 (ー) 1 年生の授業教材としても活用、来年度は 1・2 年生で実施 (○) コロナ禍で外部模試の校内実施を年度途中まで中止していた。校内受験は 270 名。14 名が Web で受験。(ー) <p>ウ・自習室 495 名、質問コーナー約 230 名が活用 (◎)</p> <p>(2) グローバル人材の育成</p> <p>ア・2 年次に 1 年次に学習した教科書の中からトピックを選びリテリングさせ、自分の意見を加味して海外修学旅行の学校交流の相手校生へのプレゼンにつなげる計画だったが、海外修学旅行の実施を断念のため最後のプレゼンは未実施 (ー)</p> <p>(3) 授業力向上</p> <p>ア・全教諭の授業の振り返りシートを回収し、面談を実施。授業に対する肯定回答率 61% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> パディシステムによる授業見学 131 回、授業マイスター計 9 名を指名、研究授業を 7 回実施 (○) <p>イ・AL 取り組む教職員の割合 79% (コロナ禍で生徒相互の対面での AL を中止した影響が大きい) (ー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 利用率 84%、オンライン授業実施率は 100% (オンラインに関する職員研修を多数実施した) (○) |
| 2 社会力 | <p>(1) キャリアサポート</p> <p>ア・進路に係る早期の意識づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 希望の進路実現 <p>イ・キャリア意識の涵養</p> | <p>(1) キャリアサポート</p> <p>ア・保護者との進路スケジュール等の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けたサポート強化 <p>イ・高大連携の強化及び見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワーク等を通じたキャリア意識の涵養 | <p>(1) キャリアサポート</p> <p>ア・学校教育自己診断 (保護者)「適切な進路指導」肯定回答率 75%以上 (R1:73%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路実現率 75%以上 (R1:73%) <p>イ・高大連携に係わるアンケート肯定回答 90%以上を維持 (R1:90%)</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワーク等に係わるアンケート肯定回答 90%以上を維持 (R1:90%) | <p>(1) キャリアサポート</p> <p>ア・「適切な進路指導」肯定回答率 73% (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路実現率は、昨年度に比べ女子が苦戦し 65%にとどまった (△) <p>イ・高大連携に係わるアンケート肯定回答 91% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワーク等に係わるアンケートは、コロナ禍で大学等の受け入れ拒否による予定変更が続いたため肯定回答は 75%にとどまった (ー) |

府立茨木西高等学校

| | | | | |
|---------------|---|--|--|---|
| 3 自律する力 | <p>(1) 自律を促す教育活動 ア・基本的な生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上 <p>(2) 安全安心な学校づくり ア・人権感覚の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の推進 <p>イ・教育相談活動の活性化</p> <p>ウ・交通安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の強化 ・災害発生の迅速な対応 ・防犯教育の強化 | <p>(1) 自律を促す教育活動 ア・生活指導の基本方針を周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻防止指導の徹底 ・生徒会主動のあいさつ運動等の企画 <p>(2) 安全安心な学校づくり ア・計画的な人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な道徳教育の推進 <p>イ・教育相談ニュース等による、窓口広報と活動の活性化</p> <p>ウ・入学時の交通安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域と連携した通学安全指導の継続 ・防災訓練を通じた共助意識の涵養 ・災害時マニュアルの見直しと連絡網の構築 ・防犯教育の強化 | <p>(1) 自律を促す教育活動 ア・IBANISHI ガイド活用による指導方針の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロッカー前遅刻者数 5%減 (R1 : 3232 名) ・生徒会主動の新企画の実施^{新規} <p>(2) 安全安心な学校づくり ア・複数学年による「同和問題に関する講演会」の実施 (R1 : 第 1 学年のみ実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断 (生徒)「命の大切さ、社会のルール」に係るアンケートの肯定回答率 65%以上 (R1 : 62%) ・道徳教育、茨西スタンダードの実施 <p>イ・学校教育自己診断 (生徒)「相談」に係る項目の肯定回答率 58%以上 (R1 : 56%)</p> <p>ウ・登下校時の事故数の 15 件以下 (R1 : 16 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学安全指導の年 10 回の実施を継続 ・マニュアル改訂と双方向の連絡体制の構築 ・災害時の生徒の安否確認訓練の実施^{新規} ・防犯に係る研修の実施 | <p>(1) 自律を促す教育活動 ア・今年度も新入生には配布済み、入学式不参加のため保護者への説明には十分には活用出来なかった (一)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロッカー前遅刻者数 2310 名 29% 減 (◎) ・ロッカー前のあいさつ運動や中庭の美化運動、ベンチづくりを実施 (○) <p>(2) 安全安心な学校づくり ア・1・2 年で 8 月に実施を予定していたが 12 月に延期、3 月に再延期して立命館大学で実施 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「命の大切さ、社会のルール」に係るアンケートの肯定回答率 78% (◎) ・コロナ感染者、医療関係者等への偏見防止と敬意を育てる教育活動を全学年で実施 (○) <p>イ・「相談」に係る項目の肯定回答率 66% (◎)</p> <p>ウ・事故件数 2 月末現在 14 件 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定を変更しながらも年 10 回実施完了 (○) ・防災訓練実施、マニュアル改定済み、双方向の連絡体制にフォーム作成ツールを新たに採用 (○) ・9/3 (木) 880 万人訓練に併せて生徒・保護者ともに実施。参加率、生徒ほぼ 100%、保護者 75% (○) ・改訂マニュアル配布時に実施 (○) |
| 4 つながる力 | <p>(1) HR 活動、生徒会、部活動の活性化 ア・HR 活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化 ・部活動の活性化 <p>イ・世界とつながる力の涵養</p> <p>(2) 小中及び地域との連携強化 ア・中高連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の強化 <p>イ・同窓会活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の教育に係わる人材発掘 <p>(3) 保護者との連携強化 ア・きめ細かい家庭との連携</p> <p>イ・PTA 活動のより一層の活性化</p> | <p>(1) HR 活動、生徒会、部活動の活性化 ア・計画的なロングホームルーム (LHR) の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の生徒会活動 ・部活動参加生徒数の増加 <p>イ・海外修学旅行の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア語学留学の成功 ・海外高校生訪日の受入 <p>(2) 小中及び地域との連携強化 ア・連携 3 中学校との連携協議会の開催と連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流協議会の開催と地域行事への参加 <p>イ・同窓会との関わり強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会による同窓会人材バンクの有効利用 <p>(3) 保護者との連携強化 ア・メール配信・封書連絡等を通じ、学校との連携強化</p> <p>イ・PTA 活動のより一層の活性化</p> | <p>(1) HR 活動、生徒会、部活動の活性化 ア・LHR 計画を学年主任会議で調整し、全職員で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事における満足度 85%以上 (R1 : 84%) ・1 年生の部活動加入率 70%以上を維持 (R1 : 70%) <p>イ・海外修学旅行の満足度 90%以上を維持 (R1 : 90%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア語学留学参加生へのアンケート実施と肯定回答 80%以上^{新規} ・国際交流行事への参加者の肯定的な感想 <p>(2) 小中及び地域との連携強化 ア・連携 3 中学校との連絡会及び出前授業、研修会等の交流の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流協議会の実施と穂積及び春日丘小学校区の行事へのボランティア参加に係る生徒の肯定的な感想 <p>イ・現役生徒への同窓会による支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会人材バンクを活用した取組みの実施 <p>(3) 保護者との連携強化 ア・保護者への情報伝達に係る肯定回答率 95%以上を維持 (R1 : 96%)</p> <p>イ・PTA 実行委員会の総括会議での肯定的意見</p> | <p>(1) HR 活動、生徒会、部活動の活性化 ア・学年主任会議を毎週金曜 5 限に開催し、LHR 計画を調整・共有 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中止した行事も多く、生徒会行事における満足度 79% (△) ・部活動体験を 2 学期にも再度実施したが、67%にとどまった (△) <p>イ・海外修学旅行は中止し国内へ変更。2 度の行き先変更の末、11 月末に実施、肯定回答率 93% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア語学留学も中止したが 10 月にオンラインでの交流を計画するも相手校の地域のロックアウトが解除されず断念 (一) <p>(2) 小中及び地域との連携強化 ア・地元 3 中学校との連絡交流会を計 3 回実施、出前講演会を 4 校で実施 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流協議会は 7 月に実施したが、穂積及び春日丘小学校区の行事がすべて中止となりボランティア参加も中止、オンラインによる敬老との交流は実施 (一) <p>イ・同窓会による校内ベンチの制作材料提供・屋上の校名看板の設置 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導に活用 (○) <p>(3) 保護者との連携強化 ア・保護者への情報伝達に係る肯定回答率 95% (○)</p> <p>イ・PTA 実行委員会は参加者と回数を制限して開催 (一)</p> |
| 5 生徒に向き合う力 | <p>(1) チームで生徒と向き合う ア・組織的、計画的なプランの策定及び実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験の少ない先生方やミドルリーダーの育成 <p>イ・教職員の働き方改革</p> | <p>(1) チームで生徒と向き合う ア・面談等を通じた適材適所の人材配置とクリティカルな研修実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨西若手塾等の活動の活性化 <p>イ・校務の精査とチーム力の向上</p> | <p>(1) チームで生徒と向き合う ア・人材配置に関わる聞き取り面談の実施と職員研修の肯定回答 70%以上 (R1 : 68%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨西若手塾等の活動の活性化と新企画の展開^{新規} <p>イ・月当たりの時間外労働が 80 時間を超える教職員のべ 20 名以下 (R1 : のべ 21 名)</p> | <p>(1) チームで生徒と向き合う ア・面談は適時実施。臨時休校やオンライン授業等、コロナ禍の中で教職員の学校運営への参画意識の高まりを感じた。残念ながら、予定していた職員研修は中止となったためアンケートは未実施 (一)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「茨西若手塾」は、コロナ禍の対応に追われ時間と場所が確保できなかったためオンラインで実施した (○) <p>イ・2 月末現在、のべ 14 名 (R1 同期比 7 名減) (○)</p> |